

実体経済の動向

◇生産は前月に引続き増加、出荷は減少

(生産——前月に引続き増加)

4月の鉱工業生産(速報、季節調整済み^(注)、前月比)は、+1.0%(船舶を除くと+1.1%)と前月に引続き増加した(前年同月比+5.4%)。

(注) 以下、前月比は物価を除き季節調整済み。

4月の生産を財別にみると、資本財輸送機械が船舶、鉄道車輛等の減少から、また非耐久消費財も灯油、新聞巻取紙、万年筆等の落込みを主因に、それぞれ減少したが、その他の財は増加を続けた。すなわち、一般資本財は、ショベル系掘削機、標準変圧機、電子計算機等が増加を続け、印刷機械、稲刈り取機等も反動増となったことから前月に引続き増加し、建設資材もセメント、板ガラス、スチールドア等を中心に増加を続けた。また耐久消費財は前月大幅増のあと電卓、電気洗たく機、電気冷蔵庫等を中心に引続き増加し、生産財も高炉製品(粗鋼、鋼板等)、原糸等が減少した反面、合成樹脂、非鉄(亜鉛を除く)、肥料等が増

加したため、2か月連続の増加となった。

(出荷——再び減少)

4月の出荷(速報、前月比)は、-1.4%(船舶を除くと-2.0%)と前月増加(+2.9%)のあと再び減少した(前年同月比+5.6%)。

4月の出荷を財別にみると、一般資本財は、振れの大きい原動機、機械プレス等が当月は著伸したこともあって前月微減のあと再び増加し、建設資材も棒鋼、セメント、スチールサッシ・ドア等を中心に増加した。

一方、前月かなりの増加となった耐久消費財は、ガス湯沸器、エアコン等が大幅反動減となり、ステレオセット、電子レンジ等も減少を続けたためかなりの減少となり、非耐久消費財も石けん、金属製玩具、陶磁器等の落込みを主因に前月に引続き減少した。また生産財も、非鉄金属加工品、合成樹脂等が増加した反面、高炉製品、電気銅、アルミ、繊維原料、石油製品等が減少したことから、前月増加のあと再び減少した。

(在庫——微減)

4月の生産者製品在庫(速報、前月比)は、-0.1%(前月-1.0%)と微減したが、在庫率(45年=100)は出荷の減少を映じて124.7と上昇した(前月

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年				52年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱 指 数	124.4	126.5	128.7	129.4	127.5	130.7	132.0
工 前期(月)比	4.4	1.7	1.7	0.5	-1.9	2.5	1.0
業 前年同期(月)比	14.6	13.7	13.8	8.5	7.6	6.9	5.4
投資財	4.7	2.0	4.0	-0.5	-2.0	4.7	0.5
資本財	5.7	1.8	4.6	-0.3	-1.6	5.6	1.0
同 (輸送機械を除く)	5.8	2.9	6.5	0.5	-2.5	1.8	3.2
輸送機械	5.7	0.9	1.0	-2.7	-0.2	12.2	-2.1
建設資材	2.4	2.5	2.5	-1.5	-3.1	0.4	1.1
消費財	4.4	-0.4	-0.9	2.2	-0.9	3.2	0.5
耐久消費財	5.3	-3.3	-1.2	4.3	-3.7	6.9	0.7
非耐久消費財	3.3	2.1	-0.4	0.8	1.4	0.4	-0.4
生産財	3.8	3.0	1.7	0.2	-1.7	0.5	1.1

(注) 1. 通産省調べ、52年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年				52年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱 指 数	128.2	130.3	130.7	134.4	132.3	136.2	134.3
工 前期(月)比	3.2	1.6	0.3	2.8	-1.7	2.9	-1.4
業 前年同期(月)比	13.4	13.4	10.5	8.0	6.7	5.1	5.6
投資財	2.0	3.7	1.1	3.3	-3.5	3.0	1.1
資本財	1.6	4.6	0.6	5.0	-5.0	3.9	1.8
同 (輸送機械を除く)	3.3	2.8	6.2	2.5	1.2	-0.2	3.3
輸送機械	0.3	6.7	-5.8	7.5	-9.8	8.8	0.0
建設資材	2.5	2.5	1.5	-0.8	-1.7	0.0	0.4
消費財	3.8	-0.5	-0.4	4.9	0.2	1.0	-3.0
耐久消費財	2.7	-2.7	0.3	7.5	-2.5	4.7	-4.0
非耐久消費財	4.4	0.5	-0.4	3.2	2.8	-1.2	-2.1
生産財	4.1	1.4	0.2	1.0	-1.7	2.5	-0.8

(注) 1. 通産省調べ、52年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	51年 (期末)			52年 (期末)	52年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
指数	158.0	160.3	167.8	167.7	169.4	167.7	167.5
前期(月)末比	-0.4	1.5	4.7	-0.1	0.2	-1.0	-0.1
前年同期(月)末比	-2.1	-1.2	5.3	5.6	5.4	5.6	5.5
製品在庫率 指数	121.8	123.0	127.2	123.1	128.0	123.1	124.7
投資財	2.6	5.6	6.0	-1.6	0.2	-0.3	-1.9
資本財	4.9	7.4	6.3	-1.4	0.8	0.9	-1.7
同(輸送機械を除く)	5.4	7.3	5.4	-2.8	0.9	-3.2	-2.5
輸送機械	4.2	8.6	9.3	-1.1	1.0	7.4	0.9
建設資材	-0.2	2.1	5.4	-1.4	-1.1	-1.7	-2.4
消費財	3.5	3.5	4.4	-3.3	-2.0	-1.4	0.0
耐久消費財	4.2	5.8	4.1	-2.3	-1.6	-1.3	-1.4
非耐久消費財	2.8	0.9	4.1	-4.4	-2.6	-1.2	1.8
生産財	-4.9	-1.4	3.8	3.0	1.8	-1.6	0.8

(注) 1. 運産省調べ、52年4月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

123.1、船舶を除いても124.8<前月122.4>と上昇)。

4月の在庫を財別にみると、一般資本財は、銅電線ケーブル、ショベル系掘削機、農業用機械等の減少から前月に引続き減少し、建設資材も平電炉製品、普通鋼熱間鋼管、板ガラス等の減少を中心に、また、耐久消費財もカラーテレビ、ステレオセット、乗用車、二輪自動車等の減少から、それぞれ3か月連続の減少となった。一方、耐久消費財は陶磁器、写真フィルム、金属製玩具等の増加から4か月ぶりに増加し、生産財も電気銅、アルミ、繊維原料、石油製品等の増加を主因に前月減少のあと再び増加した。

(設備投資——一般資本財出荷は再び増加)

4月の一般資本財出荷(速報、前月比)は、前月微減(-0.2%)のあと+3.3%と再び増加した。

品目別には、運搬機械、通信機械、金属工作機械等は減少したものの、前月減少した原動機、機械プレス等が大幅反動増となったほか、電子計算機、標準変圧機、射出成形機、繊維機械等も増加を続けた。

4月の機械受注額(船舶を除く民需、前月比)

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	51年		52年	52年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民需	2,467 (6.4)	2,707 (9.7)	2,829 (4.5)	2,617 (-18.9)	2,642 (0.9)	3,129 (18.4)
同(船舶を除く)	2,491 (4.7)	2,673 (7.3)	2,710 (1.4)	2,541 (-17.0)	2,526 (-0.6)	3,053 (20.9)
製造業	1,010 (-6.6)	1,087 (7.6)	1,161 (6.8)	1,103 (-6.3)	1,202 (8.9)	1,158 (-3.7)
非製造業	1,462 (19.8)	1,646 (12.6)	1,662 (0.9)	1,470 (-30.0)	1,416 (-3.7)	1,913 (35.1)
同(船舶を除く)	1,497 (16.1)	1,643 (9.8)	1,542 (-6.2)	1,375 (-28.0)	1,341 (-2.4)	1,913 (42.7)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

は、+20.9%(前年同月比+25.6%)と3か月ぶりに大幅増加となった。

業種別にみると、製造業からの受注は、紙・パ、自動車が引続き増加し、造船、その他製造業も増加した反面、前月大幅増となった化学、石油、鉄鋼等が反動減となり、機械、繊維等も前月に引続き減少したため、-3.7%(前年同月比+5.5%)と前月増加のあと再び減少となった。一方、非製造業(除く船舶)からの受注は、電力が著増したほか、建設、農林漁業も増加したため、+42.7%(前年同月比+45.5%)と4か月ぶりに大幅増加となった。

この間、同官公需は、防衛庁が大幅増加となったものの、運輸、通信、その他官公庁が軒並み落込んだため、-11.7%(前年同月比-10.5%)と前月に引続きかなりの減少となった。

4月の建設工事受注額(民需、速報、前月比)は、-1.3%と前月増加(+6.5%)のあと再び減少した。また、官公庁分も-8.5%と3か月連続の減少となった。

◇4月の小売商況はやや持直し

4月の全国百貨店売上高(速報、前月比)は、前月微減(3月-0.5%)のあと+1.9%と増加した。

品目別(前年同月比)には、衣料品、身のまわり品が比較的順調であったほか、これまで低調であった家庭用品、雑貨も依然低水準ながら当月はやや持直した。

5月の乗用車新車登録台数(軽を除く、前月比)は、前月末の登録が一部ずれ込んだこともあって、前月減少(4月同 -5.8%)のあと +3.2%と増加した。

◆商況の基調——月央以降反落

5月の商品市況をみると、木材、重油などは軟調を続け、砂糖も月初から反落に転じたものの、鋼板類、合繊、鉛、紙などは強含みに推移し、また条鋼類、綿糸も月央ごろまで続伸したため、月前半は前月央以来の小戻し歩調を続けた。

しかし、月後半は綿糸が軟化、そ毛糸も月末にかけて下げ足を速めたほか、棒鋼、銅も軟化するなど総じて月央以降は反落商況を呈した。

これは、月前半はメーカー側の供給抑制姿勢の堅持や末端流通筋の小口在庫補充買いの動きが続いたのに対し、月後半は、①天然繊維で高値警戒

観や一部問屋の経営破綻等から取引が萎縮したこと、②海外市況が軟化(銅、砂糖など)し、また非鉄、木材の一部ではこれまでの輸入玉の流入から市中在庫が増加したこと、③換金のための安売りの動き(棒鋼)がみられたこと、④そ毛糸、砂糖など一部で季節需要が期待外れに終わったこと、などの事情が響いたためである。

(卸売物価——引続き着き基調)

5月の卸売物価は前月比 +0.1%と引続き着いた動きを示した(前年同月比 +3.4%)。

品目別にみると、鉄鋼、食料品(塩干魚介類など)、石油・石炭・同製品が上昇した一方、非食料農林産物、製材・木製品、非鉄金属が海外市況安や実需不振のため下落した。

(消費者物価——5月<東京都区部、速報>は続騰)

5月の消費者物価<東京都区部、速報>は、総

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	51年	52年	52年					
		10~12 月平均	1~3 月平均	3月	4月	5月	5月		
							上旬	中旬	下旬
総 平 均	100.0	0.8	0.4	0.1	- 0.1	0.1	0.1	- 0.1	- 0.1
食 料 品	12.4	1.0	2.0	0.7	0.4	0.3	0.5	- 0.2	- 0.2
非 食 料 農 林 産 物	2.4	0.4	- 1.3	0.2	- 0.9	- 1.7	- 0.4	- 0.8	- 0.8
織 維 製 品	7.8	0.5	- 2.4	- 0.1	0.3	0.2	0.1	- 0.3	- 0.3
製 材 ・ 木 製 品	3.8	0.7	1.3	0.5	- 0.7	- 0.9	- 0.3	- 0.1	- 0.6
パ ル プ ・ 紙 ・ 同 製 品	2.8	6.1	0.4	- 0.2	0.5	0.3	- 0.1	0.2	0.2
金 属 素 材	1.9	- 4.8	- 0.2	- 1.2	- 4.7	- 0.9	0	0.3	- 1.5
鉄 鋼	9.4	- 0.1	- 0.8	- 0.7	- 0.9	0.6	0.4	0.1	0.1
非 鉄 金 属	4.2	- 6.3	2.6	1.2	- 1.6	- 1.0	- 0.2	0.1	- 0.4
金 属 製 品	3.8	- 2.6	1.3	0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0
電 気 機 器	9.0	0.6	0.3	- 0.2	0.3	0.5	0.4	0	- 0.1
輸 送 用 機 器	6.8	0.5	- 0.3	- 0.2	- 0.2	0.2	0.1	0	0
一 般 ・ 精 密 機 器	10.8	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	- 0.1
化 学 製 品	8.8	0.5	- 0.1	- 0.1	0.2	0.1	0	- 0.1	0.1
石 油 ・ 石 炭 ・ 同 製 品	4.6	0.3	0.7	- 0.3	- 0.4	0.3	0	0.1	0.2
窯 業 製 品	3.1	1.4	0.6	0	0.8	- 0.1	0.1	0	- 0.1
雑 品 目	7.6	4.2	0.4	0	0.7	0.3	0.1	0	0.1
工 業 製 品	85.5	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0	- 0.1
大 企 業 性 製 品	63.3	0.2	0	0	0.1	0.3	0.1	0	- 0.1
中 小 企 業 性 製 品	20.1	1.9	0.5	0.4	0	- 0.1	0	- 0.1	- 0.1
非 工 業 製 品	14.5	2.1	1.2	- 0.1	- 0.4	0	0.3	- 0.2	- 0.1

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	51年 10~12 月平均	52年 1~3 月平均	52年			最近月 の前年 同月比	
				3月	4月	5月		
東 京	総合	100.0	3.0	2.6	0.4	1.6	* 0.9	* 9.4
	季節商品を除く総合 (季節商品)	(8.1)	(0.4)	(15.9)	(0.2)	(0.8)	(* - 0.4)	(* 11.8)
	食料	40.1	1.6	4.3	0.3	0.3	* 0.6	* 7.5
	住居	11.1	1.5	1.3	0.2	0.5	1.2	6.2
	光熱	4.2	14.0	0	0	0	0	18.1
	被服 雑費	12.4 32.2	6.0 2.9	- 1.8 2.8	2.1 0.1	0.1 4.3	0 1.9	5.0 13.6
全 国	総合	100.0	2.5	2.2	0.6	1.6	...	8.6
	季節商品を除く総合 (季節商品)	(8.3)	(1.1)	(11.1)	(1.8)	(2.4)	(...)	(10.5)
	特殊 分類							
	農水畜産物	16.3	2.3	6.7	1.6	0.1	...	7.3
	工業製品	46.6	2.1	- 0.1	0.6	0.8	...	5.4
	うち大企業性製品	21.4	0.3	0.6	0.3	0.5	...	3.2
	中小企業性製品	25.2	3.5	- 0.5	1.0	1.1	...	7.5
	サービス	33.6	3.4	3.2	0.2	3.6	...	13.9

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

合で前月比+0.9%と前月(同+1.6%)に続きかなりの上昇となった(前年同月比+9.4%)。

これは、雑費が都市交通運賃改訂、住居が宿泊料の引上げ等から上昇したほか、食料品も塩干魚介類を中心にかなり値上りしたためである。

なお季節商品を除く総合でも、前月比+1.1%の上昇となった(前年同月比+9.1%)。

◇経常収支は既往最高の黒字

4月の国際収支は、長期資本収支が流出超幅を拡大し、短期資本収支も流出超となったため、貿易収支の黒字拡大にもかかわらず総合収支では、359百万ドルの黒字と前月(黒字935百万ドル)に比べ、黒字幅は縮小した。

経常収支は、貿易収支が輸出の堅調から従来のピーク(51/12月黒字1,672百万ドル)を上回る黒字(1,778百万ドル、前月黒字1,560百万ドル)を記録したうえ、貿易外収支も赤字幅を縮小したため1,229百万ドルと既往最高の黒字(前月黒字866百万ドル)となった。

長期資本収支は、本邦資本が決算期明けに伴う直接投資、借款の減少から流出超幅を縮小したものの、外国資本が、国内金利の低下等による対日証券投資の流入減を主因に49年11月以来約2年半ぶりに流出超に転じたため、全体としては397百万ドルと流出超幅を拡大した。

また、短期資本収支は、船舶輸出の集中に伴う輸出前受金の大幅引落しに加え、BCユーザンス、延払輸入等の輸入信用も決済超となったため、前月(流入超307百万ドル)とは様変りに464百万ドルの大幅流出超となった。

なお、4月の貿易収支を季節調整済みで見ると、輸出が

ほぼ横ばいとなったものの、輸入がかなりの減少を示したことから、収支じりでは1,745百万ドルと従来のピークであった前月(黒字1,489百万ドル)を上回る大幅黒字を記録した。

この間、外貨準備高は、月中320百万ドルの増加を示し、月末残高は17,317百万ドルとなった。

(輸出—引続き高水準)

4月の輸出(国際収支ベース)は、前月比で+0.5%増加し、また原計数の前年同月比でも+29.1%と前年を大幅に上回っている。

品目別(通関ベース)には、鉄鋼、自動車が前月大幅増の反動から減少したものの、船舶が引渡し集中から著増したほか、テレビ、二輪自動車、重電機器等も増加した。

地域別には、米国、カナダ向けが減少したものの、EC、東南アジア、中近東向けが増加し、中南米向けも5か月連続の増加となった。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、4月+2.3%のあと5月は-2.6%と減少した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	51 年		52 年	52 年			51年4月
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月	
経常収支	983	1,865	868	664	866	1,229	292
貿易収支	2,715	3,319	2,736	1,253	1,560	1,778	759
輸出	17,088	18,719	17,467	5,744	7,064	6,753	5,232
輸入	14,373	15,400	14,731	4,491	5,504	4,975	4,473
貿易外収支	△ 1,673	△ 1,369	△ 1,782	△ 554	△ 678	△ 530	△ 438
移転収支	△ 59	△ 85	△ 86	△ 35	△ 16	△ 19	△ 29
長期資本収支	△ 351	△ 901	△ 422	△ 196	△ 228	△ 397	93
本邦資本	△ 1,178	△ 1,595	△ 1,230	△ 280	△ 656	△ 388	△ 323
外国資本	827	694	808	84	428	△ 9	416
基礎的収支	632 (△ 115)	964 (1,302)	446 (1,899)	468 (613)	638 (567)	832 (799)	385 (460)
短期資本収支	324	△ 48	187	97	307	△ 464	△ 23
誤差脱漏	300	△ 270	△ 91	△ 112	△ 10	△ 9	△ 181
総合収支	1,256	646	542	453	935	359	181
金融勘定	1,256	646	542	453	935	359	181
外貨準備増減	1,092	115	393	343	174	320	755
その他	164	531	149	110	761	39	△ 574
外貨準備高	16,482	16,604	16,997	16,823	16,997	17,317	14,937
為銀対外ポジション	△ 14,634	△ 14,092	△ 14,080	△ 14,838	△ 14,080	△ 14,008	△ 14,740

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
51年7～9月	5,534 (+ 3.1)	4,878 (+ 10.7)	656	5,723 (+ 4.4)	5,655 (+ 9.1)	3,991 (- 0.8)	6,113 (+ 4.7)	5,733 (+ 8.8)
10～12月	5,795 (+ 4.7)	5,061 (+ 3.7)	734	5,879 (+ 2.7)	5,737 (+ 1.4)	4,141 (+ 3.8)	6,124 (+ 0.2)	6,546 (+ 14.2)
52年1～3月	6,472 (+ 11.7)	5,075 (+ 0.3)	1,397	6,480 (+ 10.2)	5,811 (+ 2.5)	4,517 (+ 9.1)	6,951 (+ 13.5)	5,976 (- 8.7)
52年1月	6,418 (+ 7.8)	5,116 (- 0.1)	1,302	6,523 (+ 8.5)	5,972 (+ 5.1)	4,425 (+ 5.3)	6,982 (+ 13.7)	5,948 (- 21.6)
2月	6,352 (- 1.0)	4,954 (- 3.2)	1,398	6,341 (- 2.8)	5,554 (- 7.0)	4,647 (+ 5.0)	6,859 (- 1.8)	5,988 (+ 0.7)
3月	6,645 (+ 4.6)	5,156 (+ 4.1)	1,489	6,575 (+ 3.7)	6,118 (+ 10.2)	4,479 (- 3.6)	7,011 (+ 2.2)	5,992 (+ 0.1)
4月	6,678 (+ 0.5)	4,933 (- 4.3)	1,745	6,822 (+ 3.7)	5,765 (- 5.8)	4,580 (+ 2.3)	7,248 (+ 3.4)	5,783 (- 3.5)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

(輸入—反動減)

4月の輸入(国際収支ベース)は、前月比で-4.3%とかなりの減少となった。もっとも原計数の前年同月比では+11.2%の伸びを維持している。

品目別(通関ベース)にみると、小麦、砂糖が著増したほか、木材、非鉄金属鉱も増加したもの

の、原油が関税引上げを見越した駆け込み入着の反動から大幅減少したほか、石炭、鉄鉱石等もかなりの減少となった。

5月の輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、4月-3.5%と減少のあと、+4.8%と再び増加した。